

み ぎしせつ こ しつない
三岸節子《室内》

この作品の題名は《室内》です。

部屋の中には、家具や食器など、いろいろなものがかかれています。

部屋にあるものを全部、
書き出してみましょ。



画面の左にかかっている女性が、
この部屋の持ちぬしだとします。
この人はいったいどんな人でしょう？

女性の表情や仕草、部屋全体の
ようすを見ながら、想像して
プロフィールを完成させてください。

わたしの名前



わたしの家族

年齢

職業

好きな色

わたしの性格

たいせつにしているもの

くわしく知りたい!

みぎせつこ しつない 三岸節子《室内》について。



みぎせつこ しつない
三岸節子《室内》
1941年、油彩・画布、162.1×130.3cm

かんしょう 鑑賞の ポイント



じがぞう げんじつ りそう 「自画像のなかの現実と理想」

ここに描かれた女性は、その顔立ちから、作者自身を描いたものと考えられます。三岸節子が自分を描いた作品には、他に、20歳のときの《自画像》があります。和服姿の少女がまっすぐこちらを見つめている絵で、いかにも自画像らしい、きりっとした存在感が伝わってきます。それに比べると、この「室内」のほうは、作者の姿が、とても静かなようすで描かれています。この時期、写真では和服を着ていることの多い三岸節子が、絵の中では花柄の洋服を着ているのも、おもしろいところです。服のようは、やさしい色で描かれ、まるで、じゅうたんやテーブルクロスに溶け込んでしまいそう…。どこまでが現実で、どこまでが空想のイメージなのか、そのなかには作者のどのような思いがこめられているのか、さまざまに想像したくなる作品です。

じがぞう げんじつ
《自画像》1925年、30.5×22.0cm 一宮市三岸節子記念美術館蔵



ざくひん 作品について

作者の三岸節子は、1940年頃、くりかえし「室内」というテーマに取り組みました。それぞれの「室内」の絵を見くらべてみると、同じ家具が何度も登場する一方、壁紙やじゅうたんのようは、描かれるたびにずいぶん違うものになっています。ということは、この作品も、ただ自分の部屋をそのまま描いたものではなさそうです。「室内」が描かれたのは、作者が、画家として人

倍の努力を重ねていたときでした。そのころ女性画家はまだ少数派でしたから、その点で苦労が多かったかもしれません。子どもを育てなければならぬという責任も負っていました。家族を抱え、気軽に歩けなかった作者にとって、「室内」は、容易に絵にできるイメージであったと同時に、自分の夢や希望を表現しやすいテーマでもあったのではないのでしょうか。

ざさか 作家について

三岸節子は一九〇五年愛知県に生まれました。旧姓は吉田といいます。女子美術学校を卒業した一九二四年に、二歳年上の画家・三岸好太郎と結婚しました。制作は結婚後も続けられ、三児の子どもを育てながら、展覧会にも出品しています。一九二四年に夫が急死してしまい、以後は、子どもたちを育てるためにも、ますます一生懸命制作に励みました。当時まだ少数派だった女性画家を集めて会をつくるなど、似た立場の画家のなかでリーダー的存在でもあったようです。一九六四年から一九九九年に亡くなるまで、神奈川県大磯町に住んでいました。一九六八年から一九七四年まではフランスで暮らしますが、帰国してからも、フランスと大磯を行き来して、生涯にわたり制作を続けました。

あさ い かん え もん でんせんふうけい
朝井閑右衛門《電線風景》



1



2



3

いま^み見ている
でんせんふうけい
「電線風景」は、
どれだろう？

いま^{てんじ}展示されている
「電線風景」に
○をつけよう。



4



8



7



6



5

てんじ
展示されている
でんせんふうけい
「電線風景」を
よく^{みかんが}見て考えよう。

メモ

でんせん でんせん
電線と電線の
あいだから、何が
見えますか？

でんせん いがい
電線以外に、
何が描かれていますか？

くわしく知りたい!

朝井閑右衛門《電線風景》について。

鑑賞のポイント



画面には、何本もの電線が描かれています。
電線と電線のあいだから見える風景や、
電線のまわりの風景にも、
注目してみましょう。

作品について

作者・朝井閑右衛門は「電線風景」の制作当時、横須賀市田浦に住んでいました。JRと京急、この二つの鉄道の交差する場所が「電線風景」という作品のアイディアのもとになっています。

朝井閑右衛門は、この「電線風景」を繰り返し描きました。横須賀美術館には、全部で14点の「電線風景」が所蔵されています。油彩画8点のほか、紙に鉛筆や水彩を使って描かれた「電線風景」が6点あります。制作年がはっきりしない「電線風景」もありますが、ほとん



《電線風景》1950年頃、鉛筆・紙、19.0×55.0cm

どが1950～60年頃に描かれたものです。

それぞれの「電線風景」は同じではなく、少しずつ違います。電線のようす、周りの風景、それに、全体の色の感じや塗り方などを見くらべてみましょう。

作家について

朝井閑右衛門は、一九〇一年大阪府に生まれました。一九一九年に東京に来て、本郷洋画研究所で油絵の勉強をしました。二十五歳のとき、二科展という展覧会に初入選。三十五歳のときには、文展という大きな展覧会で最高賞の文部大臣賞を受賞し、注目を集めました。

一九三八～四五年、繰り返し中国に行って制作をしています。

一九四七年からは、横須賀市田浦に住みました。港や街角など、横須賀らしい景色を描いた作品が多く残っています。なかでも、自宅近くの田浦の景色は「電線風景」というテーマで何度も描かれています。一九六六年に鎌倉に住まいを移し、一九八三年に亡くなるまで鎌倉で暮らしました。

同じテーマを繰り返し描くスタイルは、横須賀にいた頃から変わっていませんでした。しかし、鎌倉では、風景よりも物語の絵や静物画、肖像画などを描くことが多かったようです。

表面掲載作品 [①～④すべて横須賀美術館蔵。]

- ①《電線風景(トンネル)》1952年頃、油彩・画布、45.8×53.1cm
- ②《電線風景 1》1952年、油彩・画布、45.0×52.4cm
- ③《電線風景》制作年不詳、油彩・画布、46.0×53.0cm
- ④《電線風景 3》1950年、油彩・画布、38.0×45.5cm

- ⑤《電線風景 4》1951年頃、油彩・画布、31.8×40.8cm
- ⑥《電線風景》1951年頃、油彩・画布、31.5×40.5cm
- ⑦《電線風景 6》1950-60年、油彩・画布、31.8×41.0cm
- ⑧《電線風景》1950年、油彩・画布、45.4×53.4cm

あさい かん え もん ばら か せいせい か から こ もんちゆう こ ぜっぴつ
朝井閑右衛門《薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)》〈絶筆〉



画面を少し横から
見てみてください。
表面はどのように
なっていますか？

花の描き方で工夫しているのは、どんなところだろう？
花びら、葉っぱ、色などをよく見よう。

花びらは？

葉っぱは？

色は？

その他
気づいたこと

作者が一番
描きたかったのは、
花のどんな
ところだろう？

くわしく知りたい!

あさいかん えもん ぼら かせいせいかからこもんちゆうこ ぜっぴつ
朝井閑右衛門《薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)》《絶筆》について。



あさいかん えもん
朝井閑右衛門
《薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)》《絶筆》
1983年、油彩・画布、45.5×53.5cm

かんしょう

鑑賞のポイント



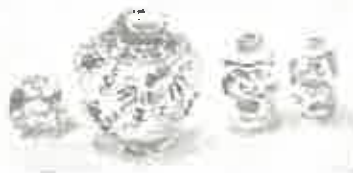
「絵の表面を見てみよう」

朝井閑右衛門は、絵の具をたっぷりと画面に塗って描いたので、表面はデコボコしていて、近くで見ていると何が描かれているのかよくわかりません。でも、花びらの色や花の柔らかさ、壺の模様などが上手にとらえられているので、遠くから離れて見ると、ピンクや赤い花が壺にいけられている様子を描いたのだとわかります。ほかの作品でも、近づいて見ることによって、使われている材料や筆の動かし方などがわかります。この、作品の表面のことを「絵肌(マチエール)」と呼びます。反対に、遠くから見ることによって、絵の全体を見ることができ、何が描かれているかわかることもあります。作品を見るときには、色々な位置や角度から見ることで発見があるかもしれません。

作品について

この作品では、ピンクや赤のバラの花が嘉靖青花唐子紋中壺という壺にいけられている様子が描かれています。壺の名前は長くて難しいですが、中国の嘉靖時代に作られた、白い下に青色で、唐子(中国の子ども)を描いた、中ぐらいの大きさの壺という意味です。この作品は、朝井閑右衛門が82歳の頃に、鎌倉にあったアトリエ(絵を描くための場所)で描いた作品です。アトリエには、壺や皿、人形など作者が気に入ったものがたくさんありました。朝井閑右衛門はこうした身の回りにあったお気に入りのものを、作品

の題材にすることがよくありました。また、朝井閑右衛門はこの作品が描かれた年に亡くなってしまったので、この作品は亡くなる直前まで描いていた最後の作品になります。



《赤絵壺と人形》不詳
横須賀美術館蔵



《夏画室》不詳
横須賀美術館蔵

作家について

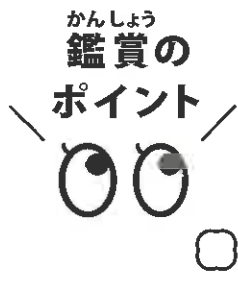
朝井閑右衛門は一九〇一年大阪府に生まれました。一九一九年に東京に来て、油絵の研究所で絵の勉強をしました。二十五歳という若さで二科展という展覧会に初入選、三十五歳のときに文展という展覧会で文部大臣賞という大きな賞をとったので人々の注目を集めました。上海や中国など外国へ何度も行ってスケッチをして、外国をテーマにした作品を描いています。一九四七年からは横須賀市の田浦にあった小さな家にひとりで住み、壺やバラ、家の近くの風景、物語に登壇する主人公などを、くり返す時間をかけて描き続けました。一九八三年、八十二歳のとき鎌倉市で亡くなりました。

きょう^み見た^{さくひん}作品のなかで、
いちばん^{こころ}心に^{のこ}残った^{さくひん}作品は、どれ？
スケッチしておこう。

※^{うらめん}裏面^{さくひん}に作品^{きろく}の記録^かを書くところがあります。

きょう見た作品のなかで、
いちばん心に残った作品について。

作品や作者を知るためのヒントを集めてみよう!



キャプションを、
よく見よう。



例

朝井閑右衛門 (1901-1983)

電線風景

1951 (昭和26)年

油彩・画布

ASA I Kan'emon
Landscape with Power Lines
1951 Oil on canvas

作者名 (生没年)

題名

制作年

技法・素材

作者名が読みにくい
場合は、ローマ字
表記をチェック!

スケッチした作品の記録を残しておこう。

題名

作者名

制作年

色や形で目立つところ

描き方や材料の特徴

自分が感じた作品の魅力を
友だちに伝えよう。